

仲
原
正
治
のまちある記

東日本大震災から10年ー横浜仲原通信



常磐線が全線開通。夜ノ森駅を通過する特急列車 撮影：2021年1月2日

仲原正治

の

まちある記

2016年1月



津波被害の撤去されていない建物の後ろには防潮堤の建設が進んでいる山田町
撮影：2016年1月24日



山田町で建設が進む復興集合住宅
撮影：2016年1月24日

東日本大震災からもうすぐ5年が経ちます。震災以降、いわき市を拠点に、様々な場所を訪ね被災地の「今」を伝えてきましたが、丸5年目を迎えるにあたり、1月に、八戸から久慈、三陸鉄道北リアス線で宮古、そこから車で大槌町まで行き、現地を見て話を聞いてきました。震災から約5年で、青森県から岩手、宮城までの三陸海岸を全部踏破したわけですが、震災の復興はまだまだ、道半ばという印象を持ちました。

八戸から宮古辺りまでは、ほとんど復興し、被害が見える場所は少なかったのですが、宮古以南になると大槌、陸前高田、南三陸、石巻、女川と、まだまだ復興には時間がかかると感じました。特にほとんどの海岸近くの地域では、地盤のかさ上げ、巨大な防潮堤の工事が進んでいるのですが、まちづくりを進めても、その場所に戻って、昔からの商売をしようとする人の数が少なく、昔の中心市街地をどう再生するのかは大きな課題となっています。また、海岸部では漁港機能以外は、公園にする箇所も多く、住宅は以前に住んでいた場所ではなく、ほとんどが高台移転となっていて、うまく市街地が形成できない現状です。

2016年3月

春の足音が近づくと、花粉症の症状が強くなる今日この頃、みなさまいかがお過ごしでしょうか。

先週、いわき市から檜葉町など、福島第一原発に近い場所に行ってきました。海岸部には多量の放射性廃棄物が積み上げられ、その範囲が以前よりも大きくなっています。その積み上げられた廃棄物の近くには、災害復興住宅が建設され、行政としては帰ってきて住んでほしいと思っているのですが、子供を抱える住民などはほとんど戻ってきていません。まだまだ、放射能との戦いは続いています。こうした中で、原発の再稼働が続いていますが、歴史的には、大きな災害の10年後くらいにまた大きな災害が来ることがあります。次にまた原発が崩壊したら、日本全体が経済破綻だけではなく、都会、地方を問わずにすべてのものが崩壊するでしょう。そうならないためにも、今、自分たちが次の世代のために何をしなければならないのか考え行動する時です。

昨日、大津地裁で高浜原発停止の仮処分がでました。日本の全部の原発が稼働をやめて、クリーンなエネルギーで過ごせればと期待しています。

九州熊本地方では、4月14日の夜の震度7という最高レベルの地震があり、気

仲原正治

の

まちある記

象庁は余震に気を付けてというメッセージを出しましたが、16日の深夜、マグニチュード7.3という、もっと強い地震が熊本地方を襲い、建物や道路などが崩壊し、多くの方が亡くなりました。避けようのない自然災害の前で、ふたたび人間は自分の無力さを思い知らされました。地震で亡くなられた方に謹んで哀悼の意を表します。また、被害に遭われている方々へお見舞い申し上げます。

日本列島には、主要な活断層が約100、小さいものを合わせると2000にも及び、活火山は100以上あり、江戸時代の1707年には富士山が噴火したという記録もあります。

国土地理院のホームページでは「日本は、しばしば直下型の大地震に見舞われるため、活断層が頻繁に動く印象を与えていますが、これは日本に活断層の数が多いためで、実は1つの活断層による大地震発生間隔は1000年から数万年と非常に長いのが特徴です。一方、海溝型地震の発生間隔はこれよりずっと短く、例えば南海トラフを震源とする地震の発生間隔は100年程度で、歴史時代に巨大地震（南海地震、東南海地震）を何回も発生させてきています。」と記載されています。

いつ、どこで、大きな自然災害が起きてもおかしくないのが、今の日本なのかと考えさせられます。

日本人は有史以来何回も噴火や地震、津波の被害を受け、いつの時代も自然の災害と戦いながら暮らしてきました。こうした自然災害が頻発する日本で、原子力発電所を再稼働することが本当に大丈夫なのかは、誰もが心配しているところです。原発は自然現象ではなく、人の手で作りだしたもので、絶対に安全なものとは言えません。また、原発で使用された放射性廃棄物は各地で保管され、その処理の方向性も決まらず、年々増加しています。今回、川内原発は、大丈夫だから稼働を続けていると報道されました。玄海原発や伊方原発も稼働を開始したいと電力会社は言っています。日本中に活断層があるのですから、いつ、その断層が原因で大きな地震が来て、原発に影響を与えるかはわかりません。

多くの火山、活断層に囲まれ、災害が続く日本で、原子力規制委員会や政治家、電力会社は、原発再稼働を推進し、何かあった場合にどのような責任を取れるのでしょうか。政治の役割は、国民、市民に安心感を待たせる施策を優先して進めるべきですが、今の政治は経済性の追求ばかりで、私を安心させてくれません。早く、自然エネルギーの開発を進め、安心安全な電気で暮らしたいと思えます。

まだまだ、日本では様々な自然災害などが続いてくることが予想されます。自

仲原正治

の

まちある記

分の住んでいるところで、いつものように暮らしをして、被災地のために何ができるのか、これからも考えて生きていければと思います。

みなさまにはお身体ご自愛にて、ふつうに暮らせることを願っています。

2016年4月



自宅近くの諏訪神社の桜は満開。夜はライトアップされる。

(撮影：2017年4月9日)

いわき市にある自宅で、朝4時半に目が覚めてしまいました。前日、野良仕事をして花粉症の症状が出てしまったことも原因のひとつで、鼻がクシュクシュして、そのうえ詰まってしまったからです。前日は21時ころには床に就いたので、6時間以上は寝ていると思い、すぐに起き出し、5時には、いわきのわが家を出発しました。磐越道経由の高速道路は時間が少し短縮されますが料金が高いため、高速道路が整備されていなかった時代によく通った県道41号小野四倉線を走ることにしました。夏井川溪谷沿いの道は狭いのですが、風光明媚で、早朝なので対向車もあまりいません。磐越東線夏井駅近くには「夏井千本桜」(小野町)で有名な場所があるので、花見のために、ちょっと休憩。このサクラ、まだまだ散ってはおらず、川沿いに素晴らしい桜色の風景をつくり出しています。小野町あたりからは少しずつクルマの数も増え、今回の最初の目的地である三春町の滝桜までもうすぐです。この近辺には桜の名所が多く、無量寺の枝垂れサクラや種まき桜など、道路を走っているといくつかの場所に表示があります。

仲原正治

の

まちある記



夏井川溪谷沿いの風光明媚な江田川溪谷は、後日、郷土の詩人草野心平が「背戸峨廊」と命名している。
撮影：2016年4月18日



「夏井千本桜」(小野町)

三春町の滝桜 撮影：2016年4月18日

滝桜には何回か訪れたことがありますが、サクラの盛の時期には来ていません。15年ほど前のゴールデンウィークのころに、妻の母を連れてきたことがありますが、その時もすでに葉桜になっていて、近くの店で、滝桜の苗木を買ってきて、自宅の庭に植えました。苗木は成長し、一度だけ数輪の桜花を咲かせましたが、それ以降、一度も咲いていません。4月の中旬なので、今回は花が咲いている滝桜を見ることができないのではないかと期待していましたが、期待は見事に裏切られました。すでにほとんどが葉桜状況。今年は開花が例年よりも一週間程度早かったとのこと。そういえば、横浜・黄金町あたりのサクラも、古木はわりと早く開花し、早く散ってしまうが、新しく植え替えたサクラは開花時期が少し遅く、そのため、散るのも遅いようです。「年寄は早起き」これは人間もサクラも同じかもしれません。

それでも1000年以上を生き抜いた滝桜の存在感はすごいものです。木の近くによると、神聖な風が吹いてくる気がします。5年前の福島原発の崩壊により、このあたりも放射能被害があったはずですが、そうしたものをすべて忘れさせてくれる存在感です。まだ、早朝(6時半頃)ですが、10数人の観光客がいて、名残のサクラを楽しんでいました。

滝桜に別れを告げて、約50km先の飯舘村に向かいました。途中の川俣町には銘品館シルクピアという道の駅があり、震災以前から何回か立ち寄り、地域の名産品をよく買っていました。山木屋地区の「みちのくグリーン牧場」のチーズは絶品でした。山木屋地区は、計画的避難地域に指定されていたため、牧場は閉鎖されていて、チーズを作ることができません。現在は、除染を急ピッチで行っていますが、森林除染を進めていないため、まだまだ、帰還できる状況には至っていません。

1年半ぶりに飯舘村に向かいますが、川俣町から飯舘村に至る県道12号線原町川俣線の道路はきれいに再整備され、その両側には1年半前にはあまり多くな

仲原正治

の

まちある記

かった除染された廃棄物が黒いビニール袋に入れられて大量に積み上げられています。



飯舘村役場のロビーには、「いいたてまでいな太陽光発電事業」の太陽光発電場所の模型が展示されている。撮影：2016年4月18日撮影



飯舘村役場の前の庭にある放射能数値計。正確かどうかはわからない。撮影：2016年4月18日



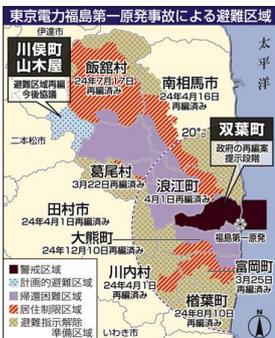
県道12号線沿いには、除染された廃棄物が積み重ねられている。撮影：2016年4月18日



(福島県ホームページより 2015年9月27日現在)

飯舘村役場のロビーには、「いいたてまでいな太陽光発電事業」の太陽光発電場所の模型が展示されています。これは東光電気工事株式会社と飯舘村の共同出資でつくったSPC（特殊目的会社）「いいたてまでいな太陽光発電株式会社」が村所有の牧草地に10,000kWの太陽光発電所を作り、運営し、東北電力に全量を売電し、事業を成り立たせようとするものです。また、村民などを含む有志で、飯舘電力株式会社も設立されています。

飯舘電力株式会社の設立の趣旨は、「飯舘村は、森林や田畑が広がり、牧場には牛が遊び、花を愛する村民の家々には季節ごとの美しい花々が咲き誇る美しい村でした。しかし、2011年3月11日以降、東京電力福島第一原子力発電所の事故により先祖が長年培ってきた田畑、森林、畜産といった生活の糧となる産業も、自然と共生していた暮らしも、放射能に奪われ、村民は理不尽にも離村を余儀なくされ全村避難の状態が続いています。事故後3年が過ぎるなかで村民の有志が集い、自らの手で地域を次世代に渡すため、この地を未来に向けて運ぶためにも、飯舘の資源を利用し、再生可能エネルギーによる「ふるさと飯舘村産業創造」を行なう事と致しました。私達村民自ら未来を選択し、行政と手を携え、新産業創出と若者の雇用を目標とし、再生可能エネルギーとしての太陽光発電事業、バイオマス発電事業、植物工場、研修施設の設置運営、世界



2012年12月当時の規制区域図

仲原正治

の

まちある記

に向けた情報発信事業、帰村拠点の運営事業等を行ない、飯館村民の自立と再生を促し、自信と尊厳を取り戻す為に飯館電力株式会社(本社飯館村)をここに設立します。」とホームページに記されています。

左：飯館電力の太陽光発電は小さな発電施設を数多く造っている。

撮影：2016年4月18日

右：県道12号線沿いにある、深谷地区の復興拠点エリア太陽光発電施設

撮影：2016年4月18日



飯館村は、1年半前に来た時とは違って規模の大きな現場事務所もでき、除染作業が急ピッチで進められ、いたるところに除染後の廃棄物が積み重ねられています。村役場の近くの飯館中学や、向かいの側のスポーツ公園には、除草機をもった作業員が、草を刈っている姿を見ることができました。何回か、ここを訪れているので、ようやく除染が行われるようになったのだと改めて思いました。残念ながら森林や林は除染対象外となっていて、雨や降り風が吹けば、またいくつかの場所には放射能が高い地域が現れるのではないかと思います。飯館村には、震災前から誰が造ったのか「ピカチュウ」の模造人形が道路わきに置かれています。震災から、ほとんどの人が避難をしていることをその目で見て、長い時間、飯館を見つめてきた「ピカチュウ」にとって、まだ、ほとんどの人が帰ってきていない村のこの5年間は何だったのだろうか、見るたびに心が痛みます。

左：飯館村で除染した廃棄物の一時保管場所はたくさん作られている。

撮影：2016年4月18日

右：飯館中学校の校庭は草をひく作業の真っ最中。

撮影：2016年4月18日



仲原正治

の

まちある記



飯舘村の除染用作業のための現場事務所。
撮影：2016年4月18日撮影



スポーツ公園も境界線が張られて作業している。
撮影：2016年4月18日



富岡駅は、海が近く津波被害がひどかった。
撮影：2014年11月10日



駅舎は取り壊され雑草が生えている富岡駅。海側には廃棄物の山ができています。
撮影：2015年12月5日



(ピカチュウの人形。昔は交通安全の標語が書いてあった。撮影：2016年4月18日)

飯舘村を後にして、南相馬市方面に向かいます。原ノ町駅周辺が南相馬市の中心市街地で、海側のキャンプ場や海水浴場は津波でほぼ壊滅し、現在も開場していません。原ノ町駅から北方面（仙台方面）へは常磐線が開通していますが、南方面（いわき方面）は運転が見あわさっていて、竜田駅まで代行バスが走っています。竜田駅からは水戸・いわき方面に向かう常磐線は開通しています。途中の富岡駅は海が近かったこともあり、駅は壊滅に近い状態で、現在は、駅舎も取り払われて、近くには除染後の廃棄物がうずたかく積まれています。

仲原正治

の

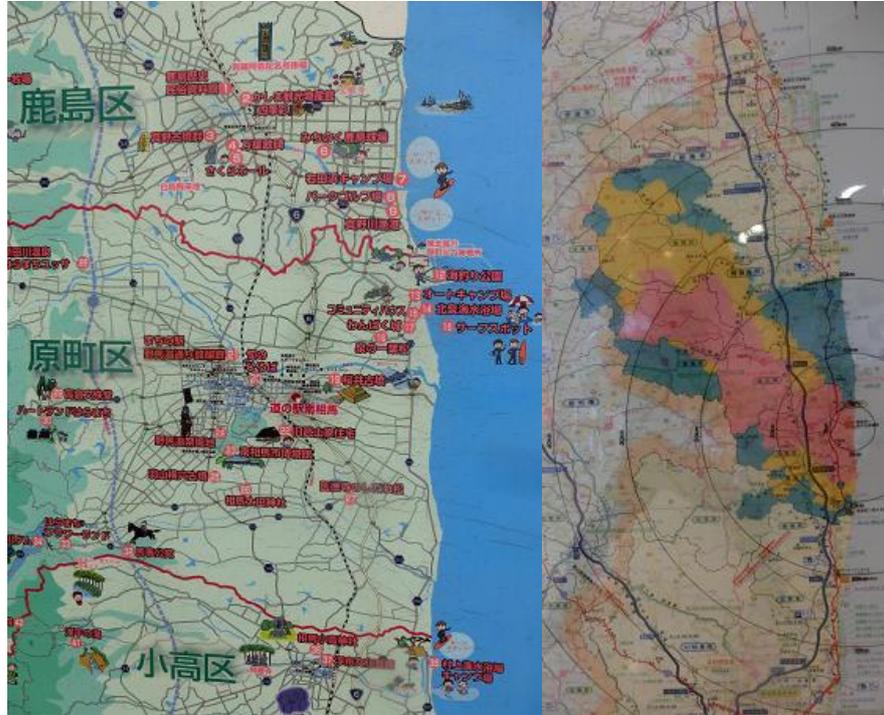
まちある記

左：南相馬市の案内図。海岸部に多くの施設があったが、今は、ほとんどが閉鎖されている。

撮影：2016年4月18日撮影

右：いわき国道事務所管内図には福島第一原発からの距離が記載され、帰還困難地区などが色塗りされている。

撮影：2016年4月18日



浪江駅前にはふつうの人の姿はなく作業員だけだった。

撮影：2016年4月18日



U字溝を覗いて、線量計を当てている作業員

撮影：2016年4月18日



駅前の店も傾いたままだ。

撮影：2016年4月18日

浪江駅は震災以降初めてですが、駅前広場に降り立ち、近くで写真を撮っていると、「ピーピー」という警戒音が何回か聞こえてきました。見ると作業員がU字溝を覗いて、線量計を当てています。「ピーピー」という音がするのだから、それなりの放射能値が出ているのだろうと思い、話しかけましたが、無視されました。駅前には、傾いた家が放置されていて、ほとんど復旧の手が入っていません。

浪江から南下し、しばらく進むと、国道6号線から陸側におれる場所に「原子力 明るい未来のエネルギー」の看板があった場所に着きますが、看板はすでに取り払われ、立入り禁止の柵だけが残っています。この看板は保管されて、後日、展示されると聞いています。



(左：看板があった2014年11月10日当時

右：取り払われていた2016年4月18日)

仲原正治

の

まちある記



常磐線竜田駅に停まっている電車。
撮影：2016年3月6日撮影

常磐線時刻表 Timetable of Joze Line		
いわき・水戸方面【上り】 for Iwaki/Mito		
時	刻	行先
6:23		水戸
7:34		水戸
8:34		水戸
11:31		いわき
13:16		水戸
15:00		水戸
16:58		いわき
18:29		いわき
20:07		いわき

竜田駅からは、水戸・いわき方面に一日9本の電車が走っている。

撮影：2016年3月6日



木戸駅近くにある災害復興住宅

撮影：2016年3月6日

左：天神山スポーツ公園から木戸駅近くを眺めると次々に放射性廃棄物が積みあがっている。

撮影：2016年3月6日

右：木戸駅付近の廃棄物の仮置き場、「解体」「除染」「災害廃棄物処理」を行っているとの表示。

撮影：2016年3月6日

すぐそばの地域には桜とツツジが美しい夜ノ森駅がありますが、そこはまだ帰還困難地区で立ち入ることはできません。福島第一原子力発電所から数キロの場所（国道6号線）には、「帰還困難地域」の看板が掲げられて、国道以外は立ち入ることはできません。この看板付近から原子力発電所方向を見るとクレーンなどがありますが、何に使用されているのかはわかりません。



（左：帰還困難地区の看板の先を左折すると福島第一原子力発電所がある。撮影：2016年4月18日）

（右：国道6号線から原発方向を見るとクレーンがある。撮影：2016年4月18日）

常磐線は竜田駅からいわき駅まではすでに開通していますが、竜田駅や木戸駅周辺には、帰ってきている人は少なく、子供たちはほとんどいません。周辺には、多くの除染後の廃棄物が積み上げられているのですが、原発から10kmほどの場所にもかかわらず、災害復興住宅が建設されています。廃棄物と原発の近くと言う環境の中で、本当にこの地域に人が戻ることができるのでしょうか。

チェルノブイリでは事故から30年経過していますが、地域は立ち入り禁止が続き、近隣の町では、放射能が原因と考えられる多くの病人を出しています。不安が残っている地域への帰還を、国だけではなく市町村は、なぜ、こんなに急ぐのでしょうか。2015年2月に福島県、大熊町、双葉町は放射性廃棄物の中間貯蔵施設への搬入について容認しましたが、最終処分場の設置は候補地も決まっています。



仲原正治

の

まちある記

2016年9月

みなさま9月の声を聞きますが、お元気でしょうか。

今年の夏も「災害列島」。九州や北海道、岩手などで台風や大雨で多くの町が被災しています。被災した方々に、お見舞い申し上げます。

福島第一原発も収拾したという話は聞けず、汚染水があふれるというような記事ばかりです。帰還できると政府・自治体が保証しても、帰還する住民は少ないのが現状です。オリンピック・パラリンピックは「復興五輪」というコンセプトで、東京に決まったはずですが、東京圏の公共事業ばかりが目立ち、それも考えられないくらいの高額な工事費。福島や東北の被災地のために、五輪で、できることはないのでしょうか。きちんとしないと「復興五輪」もウソになってしまいます。

2017年1月

日本の首相も、アメリカの政権が変わると、ノコノコとトランプ詣出、また、ロシアの大統領にもペコペコして、ロシアへの経済政策の協力を表明するだけで、何の成果もあげていません。

オリンピック・パラリンピックも同じです。「アスリートファースト」と言うては、東京集中の施設整備によって、東京一極化を進めています。大阪も何とかしようと、政党が組んで、万博やカジノを推進しようとしています。横浜も「IR (Integrated Resort) =総合的リゾート」の推進により「カジノ」を誘致すれば、数十億円の税収が見込まれると言うて、推進しようと考えています。どうも経済性ばかりの追求が、今の世の中なのでしょう。

ここには「矜持」や「プライド」の欠片も見えません。

2012年に取材で訪れた時に、角館の安藤醸造所の安藤さんが話していた「仙北市は震災や放射能の被害はほとんどなかった。岩手や宮城、隣で苦しんでいる人がいるのに、東北人の矜持として自分のところは大丈夫だからと言うような観光客の誘致はできない」という言葉が身に沁みます。

今年は「矜持」を大切に暮らしていくことができればと思います。

2017年3月

震災から6年の月日が経過しました。

その間、私は何をしたのだろうか、何かできただろうかと自問しています。

6年前のことが少しずつ遠くに感じてしまっている自分がいることは確かです。特にこの5年余は自宅で両親の介護を中心とした生活を進めていることもあり、少しの不自由さを感じながらも、毎日を安穩に暮らしています。しかし、平穩

仲原正治

の

まちある記

なときこそ、気を付けなくてはならないことがあります。突然の災害で都市は分断され、地方は疲弊していきます。東日本大震災によって原発は崩壊して多くの犠牲者を出し、今もその状態は続いています。原発が稼働しなくても関西から東の地域ではふつうに電気を使って暮らしています。震災以降、再生エネルギーの利用や省エネ家電やLEDの普及、節電意識の向上（電力料金の値上げも一因か？）などで、消費電力は10%以上減っています。それでも政府や財界は経済性を優先するため原発の再稼働に躍起になっています。しかし、廃炉費用などを含めると原発ほど不経済なものはないと聞きます。経済を優先していくことで何が起るのでしょうか。行き詰ると他の国に干渉ははじめ、気が付くと「いくさ」は始まります。経済が立ち行かなくなると「いくさ」を仕掛けようとする輩もいます。どうしたら良いのでしょうか。次に日本のどこかで災害や戦争が起きて原発が崩壊したら、もう国は滅びます。

この6年、何か変わったのでしょうか。みんながひとつになって「原発をやめて、新しいエネルギーをつくろう」という機運は高まりませんでした。

私は、そのために何ができるのか何ができたでしょうか、答えは見つかりません。

2017年4月

常磐道(国道6号線)は自動車以外の人には通れません。途中で降りてもいけないことになっています。以前に原発の入口で駐車して、写真を撮っていたら、パトカーが来て、「駐車できません」と注意をされたので、「駐車禁止」の表示はどこにあるのですかと、ちょっと抵抗しましたが、大人げないので、すぐに車を出した記憶があります。そのパトカー、警察官も福島県警所属ではありませんでした。まだまだ道路以外の周辺は立入禁止区域です。

左：他県ナンバーのパトカーから降りてきて、注意された。撮影：2015年4月26日

右：自動車の規制関係の表示。撮影：2017年4月9日



常磐線木戸駅周辺には、除染された廃棄物がますます増えています。これからこの廃棄物をどう処理するのかは決まっています。

仲原正治

の

まちある記



木戸駅周辺の廃棄物の集積場所 撮影：2017年4月9日

2017年8月

石巻で活動していた「日和アートセンター」はなくなりましたが、そこで一緒に活動していた「石巻3.0」のメンバーの一人が実行委員長となって、この夏「リボンアートフェスティバル」を開催しています。

復興ということには、日々の生活を昔のように戻すことと非日常的な場や時間を楽しむことができるということが必要と思っていますが、ようやく、その日が来たのだと実感しました。

右：名和晃平作（リボンアートフェスティバルにて）
撮影：2017年8月21日



2018年ゴールデンウィーク

妻の兄が事故で脊椎損傷になって、もう4年ほど経ち、いわきの家に来ることができず、実家の管理を任されているため、月1回程度のいわき通い。これまでは、横浜から自家用車で来ていましたが、年齢のこともあり、ゴールデンウィークが終わった後で、車を手放すことに決めたので、今回は最後の自家用車でいわき通い。少し不自由にはなりますが、安全と経費を考えると、電車に来てレンタカーを借りる生活に変えました。



リボンアートフェスティバルにて 撮影：2017年8月21日

仲原正治

の

まちある記

写真右：1994年ころに建築した別宅。夜には照明がきれいだった。



愛車よ さらば
撮影：2018年4月29日



そして、もう一つ大きな出来事は、実家の管理をするため、自分の持っている家を必要としなくなったため、家も売ることになりました。1995年ころに建築家に頼んで作った家で、様々な人が来てくれて、一緒にお酒を呑み交わした場所で、とても愛着はありましたが、二つの家を持っている必要がなく、思い切って売りに出したら、近所の人を買ってくれました。

二つの「断捨離」をすることによって、管理費用がかからなくなり、年金生活の私たちにとっては、とても助かります。

写真右：暖炉で薪を焚き、いわき沖で捕った魚を肴に日本酒を呑むのが至高の幸せ。リーウーファンの絵に囲まれて。



2019年3月

もう8年も経つ東日本大震災被災地。福島原発近くの小学校では、生徒が来ないため休校にするとの報道もあります。平成の時代、戦争は回避できそうですが、多くの災害が日本列島を襲ってきました。まだまだ復興途上の被災地がたくさんあります。一方で東京ではオリンピックパラリンピックの準備で工事がすごいスピードで行われています。復興オリパラという掛け声が空しく感じてしまいます。ふるさと納税も「さもしい」自治体が自分のところばかりを考え、それに同調している納税者が多いのも事実です。

三陸地方の復興は、地盤のかさ上げ、防潮堤の新設などハード分野は着々と進んでいるように報道されています。3月23日には旧山田線（三陸鉄道に移管）が再開しますので、6月には三陸鉄道163km全線踏破しようと思います。

福島原発の廃炉は、遅々として進んでいるようには見えません。東海村原発の再稼働ができない日本原電に対して東京電力は支援をすると報道されていますが、ちょっと待てよ！その前にやることがあるだろう。まだまだ帰還困難者や遠方に避難している人がいるだろうに。そのうえ、その費用は私たちの電気料金に跳ね返るようになっていないか。

原発再稼働に県民投票を行ったら全県でNOの投票が過半数を占めるでしょう。世の流れは原発の廃止、自然エネルギーの推進になっていると思いますが、なぜ、新しいエネルギー開発を推進しないのでしょうか。安定供給が損なわれるというわけのわからない論理は通用しないと思います。

東日本大震災から丸8年経つ3月11日は、静かに過ごします。東北地方のことを考えながら。震災で犠牲になった方々に合掌。

2019年5月

この頃、高齢者にとってますます生活がしにくくなっています。年金もですが、社会の仕組みが高齢者を排除している気がします。昔ながらの商店も少なくなり、コンビニなど24時間体制の店も多くできて、若い人には便利なのでしょうが、相手の顔が見えない関係になっています。「便利」という意味ではネット通販もそうでしょう。アマゾンや楽天に発注すればすぐに家に届く、そうした生活に慣れてしまうと、それが当たり前になってきます。スーパーマーケットができた時に、中心市街地の商店はほとんど壊滅状態になり、デパートも撤退続き、地方の中心市街地の荒廃は厳しく、活気を取り戻すには難しい状況になっています。そのうち、日本中がネット通販天国となり、スーパーもデパートも駆逐されていくのでしょうか。配達する人はこれからも大変でしょう。

私はこの便利さを、できる限り拒否する生活をしています。アマゾンや楽天などの通販での買い物はしません。ついでに言うとコンビニもほとんど使いません。飲み物は横浜橋商店街の茶舗で麦茶の麦を買って沸かして呑んでいます。お酒やワインは横浜君嶋屋や横浜の輸入代理店で直接購入します。そこではいろいろなことを教えてくれます。

物流が途絶え気味で若者が都会へと行ってしまうために、人が住めない限界集落と言われる農村が数多く存在し、今後、もっと増えると予測されます。そのうえ、原発で土地を奪われ、帰る場所がなくなった方が数万人もいます。一方、東京はオリンピック・パラリンピックで注目を浴び、集中的に投資が行われています。復興五輪という言葉は、まずは復興に力を入れて、その後にオリパラかと思っていましたが、現実とはまったく逆で、オリパラを進めるために、復興の速度が落ちていかまわらないというのが現実でしょう。虚しいばかりなので、

仲原正治

の

まちある記

私は当初からオリパラの開催には反対です。造られた施設は今後、管理費で相当に大変になるのではと思われます。

福島第一原発の立地する「大熊町」の役場が移設して新築されたと聞いて、さっそく行ってきました。場所は原発のある海岸部から相当離れた山間部で、隣町に隣接した大川原地区です。

新しい役場の周りには、復興住宅をはじめ、商業施設なども計画されており、今後、町の中心となって行くようです。ただ、この地域以外の大熊町は、ほとんどが帰還困難地区となっていて、住民はいません。

右：新しい大熊町役場、まだ引越し前なので、職員はいなかった。
撮影：2019年4月26日



新しい大熊町役場の周辺は立入が禁止されている場所ばかり。
撮影：2019年4月26日



大熊町には、大手ゼネコンをはじめとした企業が除染作業などを行う基地ができている。
撮影：2019年4月26日

2019年7月

6月下旬に被災地の三陸を廻ってきました。三陸リアス鉄道 163Km の全線が開通したので、全線踏破するためです。

印象に残ったのは、防潮堤と地盤のかさ上げ、被災遺跡の取り扱いです。防潮堤は、どの地域も高さ 10m は当たり前、海と陸を分離する計画の場所が多いようです。陸前高田は防潮堤も 2 重にあるうえ、14m以上の土地のかさ上げ、造成された土地には、まだまだ家屋も少ない状況、これからどうなるのか心配です。大船渡は防潮堤は低く、旧 JR 大船渡駅周辺に公共的な施設や商業施設が集まり、コンパクトになっていました。残念なのは北隣の「盛駅」までは三陸鉄道が来ていますが、ここは BRT のまま、大船渡までは鉄道を伸ばしてほしいと思いました。

何回か訪れた大槌町は三陸鉄道の駅ができ、周辺に住宅が集まり、仮設商店街はそろそろ役目を終えるようです。大槌では何人もの職員が亡くなった町庁舎を遺産として残すことが議論されましたが、壊され公園整備を進めています。

仲原正治

の

まちある記

右：柳津から気仙沼までのBRT路線図。
撮影：2019年6月28日



南三陸町防災庁舎の周辺の公園工事。
撮影：2019年6月28日



新しいさんさん商店街が防災庁舎に隣接してできている。
撮影：2019年6月28日

右：南三陸町の公園計画
撮影：2019年6月28日



鉄道の代りのBRT（大船渡駅）
撮影：2019年6月28日

南三陸町は旧防災庁舎を残すことで周辺の公園整備を進めています。どちらが良いのか判断できませんが、宮城県は当面残して時間をかけて考える方向に進めています。岩手県は市町村に判断をまかせたため、こうしたずれが生じているのではと感じさせられました。ただ、どこの地域に行っても、東京オリパラが原因で、資材の高騰、人材不足で入札不調になったり、工事が延長されたりと、影響が出ています。「復興五輪」という名目は東北の被災地では虚しく感じます。

仲原正治

の

まちある記

三陸鉄道リアス線は盛駅―久慈駅までの163km。全線を乗ると3,710円になりますが、赤字でしょう。こうした赤字の第三セクターの鉄道は全国各地にあります。JRの合理化で収益のあがらない路線を廃止してきた結果です。銚子電鉄では変電所が古くなり設備費用をどう工面するのか深刻に受け止めています。一方、「ふるさと納税」という悪しき制度で何百億も稼ぐ自治体があります。制度を活用するには仲介業者がいて、相当程度の手数料を取ります。推計ではふるさと納税の50%程度が返戻金と手数料でなくなると言われています。また、自分の個人情報、住所などだけではなく大まかな年収なども業者に提供することになります。本末転倒です。故郷を応援することは素晴らしいですが、一種の税金逃れで納税するのは本来の趣旨とは異なります。それよりも地域の足となっている第3セクターを応援するような制度はないのでしょうか。地方の交通機関は自動車以外はほとんど衰退しています。自動車を運転する人も高齢化で事故が心配です。公共交通機関の基盤をしっかりとさせることが、地域の元気につながるのではと思います。ふるさと納税を廃止し、地域基盤をしっかりとさせる制度に変えてほしいと思います。



全線開通ののぼり旗
撮影：2019年6月29日



三陸鉄道特別車両(別料金は
取られなかった)
撮影：2019年6月29日

2019年12月

今年の衝撃は10月の台風19号。関東地方をはじめ、長野、茨城、福島、宮城など多くの場所で河川氾濫があり、多数の家屋が水没、多くの死者・行方不明者を出したことです。災害列島日本は、今年も地震、台風、夏の異常気象など、様々な災害をもたらしています。

私の友人の弟夫婦は、宮城県丸森町で農業に従事していましたが、10月12日の台風でがけ崩れにあい、亡くなりました。妻はまだ、行方不明のままです。11月末に東北地方を旅しましたが、2011年の東日本大震災で被害を受けた場所が、今回の台風でまた被害を受けるなど、これからの生活再建をどうしようかと悩んでいる人も多かったのは悲しいことです。

これらの異常気象は、地球温暖化がその一因となっていることは、ほとんどの専門家が指摘しているところです。温暖化の影響で、ベネチアも大雨などの災害がなくても街は浸水してしまいました。11月にベネチアを訪ねた友人は、長靴持参でひざ下まで来た水の中のサンマルコ広場を歩いたとっていました。地球環境のために何ができるのか、16歳のグレタ・トゥーンベリさんの国連気候変動サミットでの発言は胸に刺さります。次世代の若者が真摯に発言していることについて、私たちは身の回りのことも含めて真摯に受け止める必要があります。私の日々の生活は、ほとんど自宅での食事で、食品ロスをなくすため

仲原正治

の

まちある記

余ったら冷凍。空調は最低限にして電気をあまり使わない。買い物は控える（買いたいものがなくなっている）。インターネットでの買い物はしませんし、コンビニでも買いません。そうした生活をしてはいますが、日本社会のエネルギー政策が不十分で、二酸化炭素放出の多い石炭火力からの撤退はしません。原発は二酸化炭素の放出量が少ないと言われ、経済界や政府は推進する方向で動いており、福島原発の教訓はまったく生かされていません。

2020年1月

今年の日本は暖冬？オーストラリアでは未曾有の山火事被害。これも地球温暖化が原因かと心を痛めています。また、中国武漢市を発症とする新型コロナウイルスが世界中を脅威に晒しています。武漢市では町を閉鎖する事態までになっていて、今後、どうなっていくの予断を許しません。私たちは毎日の生活の中で、うがい、手洗い、マスク着用、人が多い場所には行かないなど、自分を守るための行動を積み重ねるしかありません。

一方、世界情勢はある一人の独裁的な行動、自分の選挙のためだけに行動するようなことで困惑しています。敵対する人物を暗殺して、それを正当化する。この殺人犯を誰も裁かないのでしょうか。アメリカの民主主義はこういうことなのかと考えさせられます。そして、北朝鮮だけではなく中東に新しい火種を起こし、経済的な繁栄を求めため、地球温暖化をますます助長するような行動を重ねています。日本もそれに追従して、自衛隊の中東派遣などを進めていますが、それも石油の輸入を守るためという大義(?)です。地球環境を守るために自然エネルギーを活用して、脱化石燃料化を進めるべきではないでしょうか。むろん、原子力発電は論外です。

1月17日は阪神淡路大震災から25年目の節目です。25年経っても、当時の借金を返済することができない人もいます。東日本大震災は今年で丸9年になりますが、3月には常磐線が全線開通するとのこと、インフラ整備は少しずつ進んでいますが、一方で鉄道駅や道路の周辺は除染していても、まだ除染できない場所もあり、自分の土地に帰れない福島の人も多く存在します。私は月に1回程度、いわき市に通い、大根やジャガイモを作っていますが、昨年の大雨による災害で、近隣で被災した人も多く、磐越東線小川郷の駅周辺は、取り壊す家屋が多くなっています。

毎年、なんらかの災害が日本列島を襲っていて、私が死ぬまでに、東北は完全な復興を見ることができるのでしょうか？それとも、また巨大な地震、津波が日本を襲い、その復興のために大きな労力、お金を使わなくてはならないのでしょうか。生きているということは、太古の時代からそうした積み重ねになって



福島県では、コメの出荷の際には、今も全部のコメの放射能値検査を実施している。
撮影：2019年12月3日



秋に植えた大根は12月~1月ごろが収穫時期。
撮影：2020年1月2日



阪神淡路大震災から4か月経つ、神戸長田地区
撮影：1995年5月



常磐線小川郷駅付近の建物は撤去され、道路工事が行われている。
撮影：2019年12月2日

仲原正治

の

まちある記

いるのだなあと、つくづく思っています。

2020年3月

先週の3月18日—21日に、いわき市の妻の実家に行ってきました。ジャガイモを植えることはいつものことですが、常磐線が全線開通し(3月14日)、立入禁止となっていた夜の森駅や双葉駅に行くことができるようになったからです。国道6号線で夜の森駅を目指しましたが、駅方面への道路標識に従って運転しても「立入禁止」の看板ばかりで、なかなかたどり着けません。高速道路の入口を目指して、ようやく夜の森駅に到着しました。駅の周辺はつつじと桜が有名で、春は桜並木がとても美しい風景を楽しめます。駅には「桜咲け、つつじ咲け、夜の森」の横断幕がありました。さみしい気持ちにさせられました。



常磐線全線開通のポスター
撮影：2020年3月20日



夜ノ森駅周辺は、ほとんどが
帰還困難地区で、バリケード
が築かれている。
撮影：2020年3月20日



整備された「夜ノ森駅」



夜ノ森駅の横断幕

撮影：2020年3月20日



双葉駅も駅舎は立派だが、
周辺は帰還困難地区。
撮影：2020年3月20日



双葉駅前に、聖火ランナーコ
ースの表示。1年遅れで実施
された。
撮影：2020年3月20日

双葉駅前には、安倍首相も訪れた場所で、立派な駅と駅前広場が整備されています。駅前広場の片隅には、「2020年3月26日14:00-18:00ころ通行止め」の看板が立っていました。オリンピックの聖火がこの場所を通ることになっているようですが、むなしい看板だなあと考えていたら、東京オリパラが1年程度延期の発表があり、聖火リレーは行われなくなりました。

現在の夜の森駅や双葉駅の周辺には住んでいる人がほとんどおらず、周辺は大部分が立入禁止(帰還困難地区)で、常磐線を利用する客はいないのではと思われます。なぜ、駅を再開したのかというと、復興五輪を宣伝したいということ以外に考えられません。まだまだ、復興には程遠いのが現状です。1年延びるのでしたら、その間に、もっと帰還できるようにしてほしいですが、除染などをしても帰ってくる人はあまりいないのでしょうか。

帰還困難地区が解除された「浪江町」に、横浜市職員を定年退職して神奈川県から派遣されているSさんが働いているので、会ってきました。震災から5年以上経った3年ほど前に帰還困難地区が解除されたのですが、この3年ではイ

仲原正治

の

まちある記



浪江町の高台にある墓地から見た海岸部は瓦礫は撤去されたが聖地はできていない。

撮影：2020年3月20日



地元B級グルメの「浪江焼そば」お皿は相馬焼。浪江駅前には飲食店ができています。

撮影：2020年3月20日

双葉駅も駅舎は立派だが、周辺は帰還困難地区。

撮影：2020年3月20日



「2020年3月26日 グランドスタート」という横断幕

撮影：2020年3月20日

ンフラ工事なども進捗は遅く、海岸付近のがれきは撤去されていますが、空き地が広がっています。ここにも除染土壌などが積み上げられており、人口も当初の1割程度しか戻ってきていません。今後も、どのくらい戻ってくるかは疑問だと語っていました。

Sさんの仕事は浪江町での公共施設建設ですが、施設は以前の人口を基準としたもので、過大だと嘆いていました。本当に使ってくれるのだろうか、工事は100%国費で進められますが、管理運営費は毎年、町が負担するようになるからです。こんな、過剰な施設を作ってよいのだろうかと自問自答しながら仕事を進めています。彼も今年3月で任期を終えて、横浜の自宅に戻るとのことです。福島県ではコロナ禍に対する警戒心は薄いのですが、スーパーや薬局に行ってもマスクはどこも売り切れとなっています。

Jビレッジにも寄りました。ここには「2020年3月26日 グランドスタート」という横断幕があり、聖火リレーの準備が整っていました。ところが、東電はJビレッジの聖火出発地の除染をしていなかったことが判明しました。どこまでずさんなのかとあきれてしまいます。私自身は、Jビレッジに何回も行きまじし、今回も駐車場あたりをうろうろとしましたので、それなりに放射能を浴びたでしょう。

改めて被災地のことを考えると、インフラなどの整備は最低限のことで、地域のコミュニティが確立され、仕事ができる環境になり、安心して暮らせる地域社会になってこそ復興するということなのではないでしょうか。

9年の歳月で、ほかの場所で生活基盤を作っている住民も多く、仕事がない場所にあえて、戻ろうとは思わないでしょう。

現在のコロナウイルス禍は、日本人が想像するよりも厳しい状況です。東京オリンピック・パラリンピックも延期になりました。医療が崩壊して、患者数が劇的に増え、きちんとした入院治療もできずに、多くの人が犠牲になっているイタリアの現状が、明日の日本の姿かもしれません。私たちは今のままならば大丈夫だ、もうコロナ禍は終焉に向かっていると勘違いしていないでしょうか。一度火が付くと、鎮火させることができるのか、もっと拡大していくのかどうかの瀬戸際にいることを自覚しておく必要があります。

タイのムエタイ会場で集団的なクラスターが生じたとの報道もありますので、できる限り全国規模のイベントや密集して換気ができないような場所でのイベントはやめた方がよいと思います。東京都では、「ロックダウン(都市封鎖)」も視野に入れた対応を考えていると都知事は発言しています。対岸の火事ではないのです。

仲原正治

の

まちある記

ベトナムで働いている妻の姪から「日本の方がイベントなど中止になっていると思っていたのに、仙台や埼玉でやっている。日本はもうコロナは終わったと思っている感があると思う。これから2週間は気を付けた方がよい。ベトナムではショッピングモールにはみんな行かない。スーパーは配送、オフィスはマスク、体温測定、店に入るときやバス電車など、マスクして手を消毒しないと入らせてもらえないくらい徹底している。コロナになったら大変だから。よっぽどベトナムの方が危機管理が徹底している。」というメッセージも届きました。もう一度「うがい、手洗い、マスク着用、不要不急の外出の自粛」

ひとりひとりの、ほんの少しの努力で防げるかもしれません。

さて、今のようなイベントや登校を自粛しろというのは、一方で人々の生活権を奪うこととなります。自粛しろというのでしたら、それ相応の補償を考えるべきです。

劇場やライブハウス、出演者たち、それを支える舞台美術、音響などの裏方の方々は生活権を奪われている状態が1か月以上も続いています。中小企業の方々や観光産業でも物が売れない、人が来ないなどで倒産の危機にさらされています。自粛を求めるならば、補償するべきです。これを行わないと日本の文化芸術は死に絶え、国は滅びます。

国民一人一人に現金や商品券を配ることもひとつの方法かとも思いますが、自粛により被害を受けている方々に手厚い補償を優先すべきです。

9年前に東日本大震災を経験して、一生の間にこんなことが現実にあるのだ、死ぬまでにこうしたことは二度と起こらないでほしいと願ってきました。震災後は、消費する生活ではなく、使えるものはリサイクルする。断捨離をして身を軽くする。空調などもなるべく使わずに電気の消費量を減らしてきました。それも見えない放射能への恐怖があり、原発がなくても暮らせる社会を作りたいと願ってきたからです。残念ながら政府はまだ原発に頼っています。そして、今回は、新型コロナウイルスという放射能とはまた違った目に見えない敵に人類は遭遇しています。

毎年、地球の温暖化が原因で気候変動による災害が起こっています。これからもこうした災害は数年に一度はあると思っていた方がよいのかもしれません。それに備えるために、私たちは何をすればよいのか、もう一度、考えてみましょう。

横浜黄金町の大岡川沿いの桜は5分程度で、今週末から来週にかけて見ごろとなります。大岡川沿いの日ノ出町付近の京浜急行高架下には3月26日(金)に「日ノ出町フードホール」がオープンします。空揚げやラーメン、野菜などの4店

仲原正治

の

まちある記

が入居します。また、日の出スタジオにあった「日ノ出カフェ」も3月27日(金)からは「Chair COFFEE ROASTERS」となり、コーヒーの焙煎(焙煎機の貸出しあり)を中心にカフェとしての活用が始まります。

先週のいわきでの暮らしは周辺には人家も少なく、会う人もまばら、都会のコロナ禍から離れて、ゆったりと過ごすことができました。こうした時間が、どこにいても保障されるそんな日が一日も早く戻ってくることを願ってやみません。みなさま、コロナ禍に負けない慎重な生活をしてお身体ご自愛にて、お過ごしください。

2020年5月

おはようございます。みなさま、お元気でお過ごしでしょうか。

「**STAY HOME**」は「**SWEET HOME**」に

非常事態宣言以来、テレワークなど在宅勤務の方が多くなっています。家にいると家族がいて、なかなか自分の思う通りには動けないのが現状でしょう。外出も買い物や散歩などにかぎられていて不自由な日々が続きます。

ゴールデンウィーク時期は、農家は田植えの時期、子供たちを含めて家族そろって田植えに従事する。そんな時代(昭和30年代)はありましたが、そこには戻れません。学校に行くことができない子供たちは遊びたい、夫も妻もテレワークや家事で忙しい。みんながバラバラなことをしたい、しなければならないのが今の社会です。自分の意志にかかわらず、どうしても妻や夫、子供はお互いの自由を拘束してしまいます。別々のことをしなくてはならない人が一緒に家にとどまるのが長く続くと精神的にも疲弊してしまいます。

「亭主元気で留守が良い」というCMコピーがありました。自由にできる時間がある程度保障されている社会だから成り立つものでした。今は「家族みんな元気に、でも留守になれない」状態です。いろいろな家族がいて、一概には言えませんが、どういう風に自分の家庭を「**SWEET HOME**」にしていくことができるのかが問われているのではないかと思います。

市役所を退職し両親を看取った後は、妻の常さんと二人の生活が続いています。ギャラリーも2か月近く閉じて、現在は人に会う場所にはあまり行かない生活です。そして、朝起きてから寝るまでの時間は規則正しい生活を続けています。ギャラリーに午前中に来て、パワーポイントで資料を作ったり、物を書いたり・・・お昼の弁当を食べたら、あとは家に帰って音楽を聴きながら本を読み、料理に挑戦したりと(迷惑がられることもあります)、私の生活はコロナ禍以前とあまり変化はなく、ゆったりとして落ち着いた生活を営むことができます。中央市場が近くなので1週間に1回は新鮮な魚を買い、夕食には新鮮な刺

仲原正治

の

まちある記

身や煮物などを肴に、毎日常さんとワインを1本開けています。ゆっくりと風呂につかり、早く寝て早く起きる。起きたら体温を測って、

「あー今日も生きている」と感謝する毎日です。

たぶん、5月31日には非常警戒が解除されると思います。しかし、コロナ以前と以後は生活の質や量を変えていくことが必要でしょう。

その時には、コロナと共生しながら、自分が罹患しないような行動、家族との触れ合いを大切にした生活「SWEET HOME」にしたいものです。

みなさまに下記の歌詞を贈ります。

「埴生の宿」(世界の民謡・童謡から)

Mid pleasures and palaces,

Tho' we may roam;

Be it ever so humble,

There's no place like home;

宮殿での享樂もあろうが

粗末なれど 我が家にまさる所なし

A charm from the skies

Seems to follow us there,

Which, seek through the world

Is ne'er met with elsewhere.

そこでは天からの魅惑漂う

世界中探せど他に変わる所なし

Home! Home! Sweet home!

There's no place like home!

Oh! there is no place like home!

愛すべき我が家よ 我が家が一番

我が家にまさる所なし

作曲：イングランドの作曲家ヘンリー・ビショップ (Henry Rowley Bishop/1786-1855)。作詞：アメリカのジョン・ハワード・ペイン (John Howard Payne/1791-1852)。

仲原正治

の

まちある記

2020年7月



品川発いわき着のひたち7号は1車両5-6人の乗車人数。

撮影：2020年6月14日



畑仕事は楽しい。

撮影：2020年6月14日



放置していた畑では、ジャガイモができていた。

撮影：2020年6月14日

6月になり、様々な規制も少しずつ解除されましたが、東京都では300人に迫る感染者が出るなど、憶病な私はまだ精神的には無理だなあと思い暮らしています。政府はGO to トラベルキャンペーンで東京外しをしましたが、問題の解決になるとは思えず、**GO to** **トラブル**になるのではと危惧しています。

6月中旬に3か月ぶりにいわきの実家に帰りました。常磐線の特急には1両に5人程度で、みんな離れて座っていて、安全に近い旅でした。

いわき駅に着いて、レンタカー会社に行くと、だれも利用していないのか、すごい数の空車があり、みんな自粛しているのだなあと改めて思いました。

実家では3か月放置していた畑は草が茫々で、3月に植えたジャガイモは隠れて見えません。刈り払い機で廻りの草を払おうと思いましたが、どれがジャガイモでどれが草かわからない状態。仕方なしに、ジャガイモを見つけて掘ってみたら、どうにか食べられそうなジャガイモが出てきました。それならば全部収穫してしまおうと考え、実行に移しました。3か月放置していても土の力が良かったのか、どうにかの収穫。ほっとしました。

いなかで暮らして良かったのは、周辺にあまり家もなく、隣人と話すこともないので、コロナの脅威をまったく感じなかったことです。関東圏から人が来るということだけで警戒されると思い、親戚にも庭で挨拶して土産だけを届けました。晴耕雨読という言葉がしっくりする日々でした。

これからの日本は、都市に集中して暮らすことよりも、緑豊かな場所で家族と一緒に畑などを作りながらテレワークするという時代が来るかもしれません。満員電車で揺られることもなく、趣味などもゆったりした環境で行うなど、余裕のある生活ができて、家族とも一緒にいる時間が長くなり、「STAY HOME」＝「SWEET HOME」になるのではと思います。地方に拠点を構えることによって、安心した生活ができる気がします。

そのぶん、都心のオフィス需要は減少していくだろうと予想されます。これまでの価値観で「開発」を進めたり、インバウンドに過度に期待したり、大規模な集客施設を作るという考え方は通用しなくなるのではないのでしょうか。経済は大切で、人の暮らしの一部を良くすることができますが、家族や近隣とのコミュニティ、自分が本当に行いたいことは何なのかを考えて、自分を発掘することなど、クリエイティブな生活を創っていくことがより一層大切になるのではないのでしょうか。

人間は人と人が接して生きることが基本ですので、これをどのように続けていくことができるのかが、私のこれからの課題です。

私は年齢70を超えましたので、今の都心での生活を捨てることは無理ですが、

仲原正治

の

まちある記

身体の続く限り、いなかへ行って緑の環境の中で、土いじりをしながら暮らしたいと思っています。

そして、皆さんとの居酒屋などでのノミネーションは少人数以外は基本的にやめます。展覧会でお会いした時に話をするとか、親しい人は自宅に招いて、少人数で美味しいお酒と肴で歓迎できればと思います。

しばらくは今の状況は続いていくでしょう。もしかしたら、生きている間は、こうした困難がずっと待っているのではないかと悲観しています。そのうえ、また東日本大震災級の地震が来たらと思うと、あーあ。

2020年9月



田舎では、たくさんの書籍が私を待っている。
撮影：2020年6月14日



若いころに購入したが読んでいない本も多い。
撮影：2020年3月20日



福島の日本酒も私を待っている。
撮影：2021年3月18日

2011年3月11日に東日本大震災があり、津波と原発崩壊でどうなるのだろうかと考えながら暮らしてきた9年。死ぬまでにこんなことはもうないだろうと油断していたら、コロナウイルスの蔓延。人生でこんな時期が来るとは思いませんでした。こうした中で、自粛しながら生きていくことが余儀なくされている毎日です。

不要不急の意味を調べると、「不要」は「大事ではない」という意味、「不急」は「急いでいない」という意味。「不要不急」とは「物事の大切な部分でもなければ、急ぎでもなく、突然なことでもない」、言い換えてみれば「大して大事なこともなく、急ぎでもないの、後回しでも良いだろう」ということらしい。8月中旬にいわきの妻の実家へ行きました。お盆の季節、墓参りや先祖を供養することは、不要なことかということ、大切なこと。不急かということ、その時期にしかできない行事なので不急ではありません。

不要不急についての考え方は、人それぞれの価値観があり、その人にとって、必要だと思うことをすれば良いのだと思います。

今は、いなかに行き、ゆっくりと晴耕雨読する時間がとても貴重です。周辺に住む人も少なく、会って話をすることはありません。土と向かい合い、読書に勤しむ。そんな生活ができるので、安心して暮らすことができます。

不要不急と世間が言っていることは、実は私たちにとっては心の糧になることが多いのではと思います。今まで生活して楽しんできたことの大半は、日常を暮らしながら、非日常を楽しむ連続だった気がします。旅行に行き温泉で癒される。赤煉瓦の建物を見て歴史を学ぶ。地方の美味しい物を食べお酒を呑む。友が来たら一緒に酒を酌み交わす。こうした人の心の糧になることは、不要不急だとは思いません。

旅行、アートや音楽の鑑賞、日常から少し離れた時間を体験することは日常に刺激を与え、活力を生み出します。窮屈になった世の中で、どういう非日常を

仲原正治

の

まちある記

創り、心の糧を探すのか、それがこれからの課題です。

節度を保ち、コロナに自分がかからない工夫、人に移さない工夫をしながら自分が望むことを考えれば、おのずと道は開けてくるのではないのでしょうか。慎重に憶病に暮らして、それでもコロナに感染したら、それはもう人知の及ばないことと考えるしかありません。

私はGO to トラベルの利用はしません。自分が好きな所へ行くのに、お上の援助は不要です。油断大敵コロナボウボウ、にならない行動をとりながら、毎日を暮らします。



ヨコハマトリエンナーレ
2020 作品
撮影：2020年7月20日



ヨコハマトリエンナーレ
2020 作品
撮影：2020年7月20日



BankART LIFE 川俣正
撮影：2021年9月27日



BankART LIFE 川俣正
撮影：2021年9月27日

2020年11月

横浜では7月から10月にかけてヨコハマトリエンナーレ2020、BankART LIFE、黄金町バザールなど、いつもと同じように展覧会が開催されました。

コロナ禍の中で、どのようなことができるのか、どうやったらよいのか、試行錯誤の中で実施されたことについては、関係者の方々の苦勞がしのべれます。

さて、これらを鑑賞して、感じたことがあります。

トリエンナーレもBankARTもほとんどの作家はリモートでの参加を余儀なくされました。外国で作ったものを送ってきたり、指示書を送り日本で施工のプロが作成する。そうした作品が多かったことは事実です。

リモートで作成した作品は、日本の制作会社のプロが作ったものですから、きちんと作られています、何か物足りないのです。きちんとできすぎている。安全性を最優先して作られている。そうした違和感を感じてしまったのは、私だけだったのでしょうか。

作家が作品を制作する場合、その場を考え、いろいろな人と議論をしながら、自分が現場で感じた「フエジーな部分」や「危ない部分」をどう作品に盛り込んでいくのか、それは、もしかしたら現場でしかできないものなんだろうと思います。それらを現場で考え実践していくことで、作品になっていくのではないのでしょうか。今回は、そうした過程がほとんどない作品が多かったのではないのでしょうか。リモートで現地に來ることができない形で作ったものは、その作家のほんとうの作品なのだろうか？ZOOMなどで指示があって作られた作品は、その人の作品なのだろうか？という疑問です。作家と現場のコミュニケーションのない、または少ないアートは、果たして人々の共感を得られるのでしょうか？

世の中、コロナ禍をはじめとして、何らかの形で現場に來ることができないという状況はこれからも起きることが予想されます。こうした状況下での作品の在り方、アーティストと関係者、観客とのコミュニケーションはどうあるべき

仲原正治

の

まちある記

か、今回のトリエンナーレは、失敗か成功かの評価は別にして、この時代の新しい実験だった気がします。でも、よく実施できたなあ、お客さんも来てくれたなあというのが正直な感想です。

2020年12月

コロナ禍が厳しく続いている今日この頃。みなさま生きていますか？

今年の暮れから正月にかけては、Goto トラベルが一時休止となりました。でも、考えてみたら、Goto トラベルの恩恵がなかった時代に、みんな、暮れや正月には休みを取って帰省や旅行していました。ふつうどおりに行動すればよいのではないかと思い、私は暮れには田舎に行って、ゆっくりと過ごす予定です。

この頃、世知辛く、「さもしい」世の中を感じます。政府はGoto トラベル、EAT、いろいろな施策で、消費喚起を進めていますが、格差を助長しているように思われます。むろん恩恵を受けることを否定しているわけではありません。しかし、大手の旅行代理店は、たくさんの注文で繁盛し、中小や普通の旅館業の人は、恩恵をあまり受けられません。医療従事者、福祉従事者、働く場所を失った方、危機的な飲食店の方々、日々の暮らしに汲々している人には旅行も覚束きません。助成金を使える人と使えない人との格差は開いています。

こうした施策に、一部の若者は飛びつき、ずるがしこく金を稼いだりします。高齢者は、パソコンを使うことも難しく、なかなか恩恵を受けられません。いつからこんなに格差が大きい「さもしい社会」になっているのでしょうか。ここ数年、実施されている「ふるさと納税」はそれを助長してきました。本来は、自分の故郷の応援や被災地への支援などが目的だったはずですが、ですから、中小の自治体を支援して、返礼はいらないのが原則でしょう。いまは、返礼品が豪華だからという理由が主で、自治体もあの手この手でふるさと納税の獲得に走っています。自治体の自主性、自立性はそこにはありません。ただ、自分のところが儲かればよいという考え方です。それに国民やマスコミが追従しています。マスコミはコロナ禍を含め、煽りすぎています。

「私は人としての矜持を忘れず生きていきたいと思います。」

一過性の施策の次に来るのは、大不況です。コロナ禍の影響で、これから2-3年の間は、飲食店の廃業、中小企業の倒産は加速度的に進むでしょう。

飲食店が不況になると仕入れ業者も生産者も家主も不況になるなど様々な影響がでます。雇用もままならず、賃金も賃料も入ってこないなど、負の連鎖を生み、経済破綻が予想されます。しかし、株価だけはあまり下がりにません。その原因は明確です。年金の運用で、株価を操作しているからです。しかし、これも限界が来た時に90年代のバブル崩壊以上の打撃が来る可能性があります、年金生



パソコン予約でなく、いつものように温泉宿に電話予約したら、Goto トラベルの地域クーポン券をいただいた。うーん。

撮影：2020年10月21日

活者も大変になります。

若いみなさん、今の施策はほとんどが国債という借金で賄われています。この借金は、20年30年と将来にわたってみなさんに降りかかってくる。今を充実させる代わりに、何年か後には、その付けを返すことになります。

そのころ、私は墓の中なので、びくともしませんか？

さて、5年前（2015年）の暮れのあいさつで、次のようなことを書きました。

- ・ 飢えることがなく、世の中が平和であること
- ・ 自由に物事が言えること
- ・ 社会的に弱い人がふつうに暮らせること
- ・ 犯罪や事故、危険に人々がさらされないこと
- ・ 地域のコミュニティが豊かでお互いがふつうに助け合える環境であること
- ・ 地球環境が豊かで、温暖化や自然災害が少ないこと
- ・ 文化芸術、スポーツなどで楽しい時間を過ごせること

5年間を振り返ってみて、ほとんど実現できていないというのが正直な感想です。それはコロナ禍だけが原因ではありません。大統領や首相は平気で嘘をつき、それをマスコミを含めて、国民は許しています。学問の自由や表現の自由も侵され始め、世の中は平和ではありませんし、社会的弱者は普通に暮らすことも難しくなっています。危険運転やおおり運転は続いていますし、毎年、自然災害で何人もの方が犠牲になっています。

福島では原発の処理水が海に投棄される可能性が高くなっています。学者の方々は、汚染水は「安全」で、どこの国でも放出していると言います。科学的に安全ならば、以前から主張しているように、東京湾に流したらどうですかと思いますが、それは論外になっています。

なぜでしょうか。「安心」を得られないからです。福島県民180万人は、まったく安心していません、また、福島沖の魚は全く買われなくなるでしょう。これを東京湾に流したら、首都圏2500万人の「安心」が得られないからです。一方で女川原発の再稼働を宮城県は地元承認しました。地震が来ることが予想される中で、宮城県、女川町、石巻市だけの問題でこれを進めようとしています。知事は有事の際に責任をとれるのでしょうか。

コロナ禍もそうです。PCR検査を受けて陰性ですとか抗体のある人ばかりなので「安全です」と言われても大人数の場所には「安心」がありませんので、私は行きません。安全と安心はまったく異なります。安心と安全が一体となって初めて、何かを進めることができるのではないのでしょうか。

三密と言われる「密閉、密集、密接」は人と人とのコミュニケーションの基本

仲原正治

の

まちある記

です。今の時代、コミュニケーションをパソコンの中で済ましてしまう社会的な動き、非常に悲しくなりますが、しばらくは我慢ガマンです。

最近、私の行動も断捨離状況です。楽しい非日常生活を過ごそうかと思うと、コロナが外出や鑑賞を阻害します。今まで旅行をしたり、人と一緒に食事をするのが楽しみだったのですが、これが難しい時代です。その分、アートや音楽、読書の時間が長くなり楽しんでます。また、月一度のいわきでの生活は楽しみです。土と遊び作物を育てる作業は、何のストレスもありません。

しかし、やはり人と会って話をしたい、酒を酌み交わしたい、お茶を飲みたいという願望だけではありませんので、フェイスブックの利用度が増えています。遠くの知り合いの存在を確認できることは、素晴らしいことです。

日記代わりなので、つまらないことを掲載することが多いのですが、ご容赦を。

2021年3月末

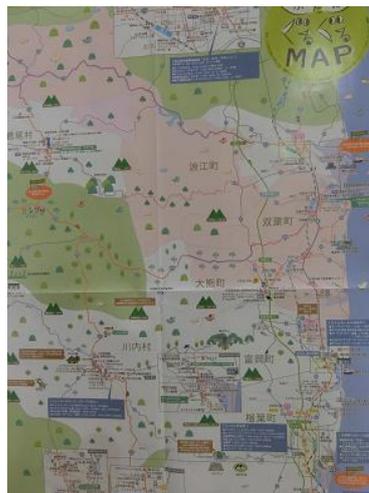
彼岸の3月19日に、東日本大震災から10年の原発被災地を廻ってきました。福島第一原子力発電所の立地する大熊町は、原発から離れた大川原地区に町役場を移し、その周辺に復興住宅やマーケットなどを整備しています。私の友人の建築家のIさんは、2023年4月開校の学校とコミュニティハウス併設の施設を設計しています。ただ、竣工しても何人の小学生が通学するのは未定（極端に少ないと予想されています）、それでも町を生き返させるためには、公共的な施設は必要でしょう。



大熊町役場の近くには多くの復興住宅ができています。
撮影：2021年3月19日



2023年4月開校予定の学校とコミュニティハウス併設の施設模型(大熊町広報誌より)
撮影：2021年3月19日



福島第一原発周辺の町の地図



大熊町役場周辺の地図

仲原正治

の

まちある記

3月26日に聖火リレーがJビレッジを出発して、原発被災地域を廻りました。テレビの映像では、きれいに整備された駅などが映されています。これは「復興五輪」を内外、特に外国に見せる単なるパフォーマンスです。現実には、駅の周辺は帰還困難地区ばかりで、10年以上住んでいない廃屋がたくさん残され、周辺は除染もされていないのが現状です。



双葉町では、まだ手が付けられない建物が残っている。
撮影：2021年1月2日

左) 陶芸の大堀相馬焼地区も帰還困難地区で、誰も住めません。

撮影：2021年3月19日

右) 中間処理施設の建設が進んでいる。

撮影：2021年1月2日



汚染して農耕ができない土地には多くのソーラーパネルが建てられています。福島県では原発は廃止して、二度と作らないと宣言していますので、その代わりに自然エネルギーが必要となりますが、ソーラーパネルばかりが多く、少し行き過ぎかとも感じました。

コアな地域は除染しても住民は帰還してこないだろう、どうせ進めても経費ばかりかかって、無駄だということで除染作業がなされていません。2045年までに福島県外で最終処分を行うことが法律で定められおり、中間処理施設は福島県内で稼働していますが、最終処分場の選定は北海道の2町村が交付金目的で調査を受けると表明するだけで、まったく進展していません。

この地区の除染をせずに見捨てることで、将来、他の都道府県に最終処分をまかせるのではなく、どうせ福島は汚染されているのだから、最終処分も福島でやればよいという結論(世論)に導こうとしているのではと疑います。

私は絶対に許しません。

政府は、2年後をめどに、福島原発の汚染水を海に放流することを決めました。処理水のタンクがいっぱいとなり放出せざるを得ない、ほかの国の原発も行って、トリチウムも希薄すれば人体には影響はないというのが主な理由です。今まで政府も東電も肝心なところで「嘘」をついてきました。今回も地元福島の同意が得られない限り行わないと政府答弁してきました。しかし、それも嘘です。処理水を流し始めて、誰が、そのチェックをするのでしょうか。また、東電でしょう。そして都合の悪い情報を隠して、露見すると、頭を下げて保障しますという決まり文句です。根本的な部分で、政府も東電も信用できないの



いわきの実家で見つけた相馬焼の徳利。いわきあたりではどの家にも当たり前にあった。

撮影：2021年4月20日



ソーラーパネルの森となっている農耕不能地区。4月開校予定の学校とコミュニティハウス併設の施設模型
撮影：2021年1月2日

仲原正治

の

まちある記

です。これによって、福島だけではなく日本中の魚介類に影響が出たときに、誰が責任を取れるのでしょうか。

常磐線小高駅から約 200mの場所に小説家の柳美里さんが経営する書店「フルハウス」ができています。鎌倉に住む柳さんは地元の FM 放送に出演したことをきっかけに、小高町に書店を開きました。書棚には、様々な作家の方が推薦する図書が並んでいて、見るだけで楽しいものです。全米図書賞の「JR上野駅公園口」をはじめとする山手線シリーズのサイン本も並んでいます。上野駅の本は読んでいましたが、ほかの本はまだなので早速購入、そのうえ「ゴルドラッシュ」という横浜黄金町地区が舞台の書籍も買い、読みました。地域の方が戻って価値を活性化させることも大切ですが、他所から被災地に来て「なにか」を始めるといった活動は素晴らしいことです。



柳美里さんが経営する書店「フルハウス」
撮影：2021年3月19日



柳美里さんの書籍が並ぶ店内
撮影：2021年3月19日

コロナ禍の中で、テレワークが求められ、人と人との接触を自粛せざるを得ない世の中で、都会に居住し仕事をするという今までの価値観は薄れていく気がします。東日本大震災の時に、原発はもうこりごりだと日本中の方が思い、節電が当たり前、生活の質を見直す動きがちょっとありましたが、経済第一主義がはびこり「喉元過ぎれば熱さを忘れる」のことわざの通りになりました。今回のコロナ禍の中で、生活の質や生き方をもう一度見つめなおしていかないと、人類は滅びます。

地方に拠点を持ち、土と親しみ、家族一緒にエコな生活をして、地域と新しいコミュニティを形成していくことが重要になります。お金ではない豊かさは何なのかをもう一度問い直す時期だと思います。

横浜黄金町地区では、地域の方々と月1回の清掃を兼ねたパトロール、月2回の地域の協議会の集まり、建物を建設する際のまちづくり協議、趣味の会の会合など、日常をしっかりと守った活動を続けています。コロナ禍からも「自分を守り、家族を守り、地域を守る」を徹底していくつもりです。みなさん、身体ご自愛にて、清く楽しく美しくお過ごしください。

(2021年5月 横浜黄金町にて)

仲原正治
の
まちある記

=====

著者：仲原正治

発行：2021年5月

「仲原正治のまちある記—東日本大震災から10年—横浜仲原通信」を加筆・訂正したものです。今回は5年経った時から10年までの記録です。5年目までは、「日経BP社ケンプラッツ」に掲載した記事をお読みください。このホームページの「仲原正治のまちある記」「東日本大震災」に掲載しています。この文章及び写真（提供写真を除く）については、出典さえ明らかにしていれば「著作権フリー」です。

仲原正治（なかはら まさはる）略歴

(株)MZarts クリエイティブ・ディレクター(陶磁器・現代アートギャラリー)

1949年東京生まれ。1974年東北大学法学部卒業。

文化芸術によるまちづくり及びクリエイティブシティ政策の専門家。

2011年4月から2015年12月まで、日経BP社の総合サイト「ケンプラッツ」に「まちある記」を連載。全国の中心市街地、東日本大震災の被災地のレポートなど、特徴あるまちづくりを紹介している。

主な著書：「横浜市創造都市事業本部 2586日の戦い」（インターネット出版）。現在、NPO法人黄金町エリアマネジメントセンター理事、赤煉瓦ネットワーク通信員。